

復興計画プロジェクトの概況 【平成 27 年 3 月末現在】

No.	プロジェクト名	平成 26 年 12 月末の状況	平成 27 年 3 月末の状況
1	気仙沼市緊急産業復旧 P	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水産加工施設等集積地の嵩上げ工事は、一部区画を除いて完了。今後、道路部分についてライフラインと合わせて整備する。 ・ 水産加工施設等集積地への立地事業者数は、南気仙沼地区 61 社、鹿折地区 22 社、合計 83 社 ・ 赤岩港水産加工団地は、H27 年 12 月造成完了予定。 ・ 市所管の第 1 種漁港 31 港は、H26 年度までに復旧予定。 ・ 水産業復興対策本部を継続して開催し、関係者と意見交換している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水産加工施設等集積地の嵩上げ工事は、一部区画を除いて完了。今後、道路部分についてライフラインと合わせて整備する。 ・ 水産加工施設等集積地への立地事業者数は、南気仙沼地区 59 社、鹿折地区 21 社、合計 80 社 ・ 赤岩港水産加工団地は、H27 年 12 月造成完了予定。 ・ 市所管の第 1 種漁港 31 港は、H27 年度までに復旧予定。 ・ 水産業復興対策本部を継続して開催し、関係者と意見交換している。
2	世界一の魚市場 P	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魚市場整備検討のための部会を開催(H26 年度は 12 月末までに施設部会を 5 回、観光部会を 3 回開催) ・ 部会で協議した内容を部会案として魚市場整備検討委員会に提案の上、H26 年 6 月 4 日開催の第 1 回委員会において基本計画が、11 月 29 日開催の第 2 回委員会において整備実施内容が固まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魚市場整備検討のための部会を開催(H26 年度は 3 月末までに施設部会を 5 回、観光部会を 4 回開催) ・ 部会で協議した内容を部会案として魚市場整備検討委員会に提案の上、H26 年 6 月 4 日開催の第 1 回委員会において基本計画が、11 月 29 日開催の第 2 回委員会において整備実施内容が固まった。
3	造船・船用工業界の集約と連携(造船団地)P	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査測量設計を実施(~H27 年 3 月 30 日)するなど、事業の具現化に取り組んでいる。 ・ 第 1 回気仙沼市朝日町造船施設整備に係る環境対策評価委員会を開催(H26 年 10 月 28 日)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2 回気仙沼市朝日町造船施設整備に係る環境対策評価委員会を開催(H27 年 3 月 20 日) ・ 都市計画決定(H27 年 3 月 31 日)
4	環境と防災に配慮したフォレストベンチ工法活用 P	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舞根 2 地区の防災集団移転促進事業地内で導入を検討したが、施工検討箇所が軟弱地盤であったことから、当該工法の施行が困難になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左記に同じ
5	気仙沼市再生エネルギー導入 P	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の事業が進行していることから、年 1 回程度(H25.2)、関係事業者と行政との情報交換会の開催は継続する。 ・ 個々の事業が検討・実施されているが、市全体のエネルギー戦略をどのように構築するかが課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の事業が進行していることから、関係事業者と行政との情報交換会の開催は継続する。 ・ 個々の事業が検討・実施されているが、市全体のエネルギー戦略をどのように構築するかが課題
6	三陸リアス・ジオパーク P	<ul style="list-style-type: none"> ・ H26 年 12 月 9 日に、ジオパーク解説リーフレット作成に向けた運営委員会を開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 27 年 2 月 7 日三陸ジオパーク認定一周年記念事業「ジオパーク勉強会～入門編～ジオパークって何？」と題し市民を対象にした勉強会を開催した。 ・ 3 月 26 日「気仙沼まるごとジオパーク MAP」(案)について運営委員会を開催。 ・ 3 月 31 日付で「気仙沼まるごとジオパーク MAP」を作成し、市内観光協会や道の駅等に配布。
7	セントラルパーク(ユニバーサルデザイン)の公園整備 P	<ul style="list-style-type: none"> ・ H26 年 9 月 測量設計業務契約(松崎尾崎、南気仙沼) ・ H26 年 11 月 事業説明会開催(尾崎) ・ (H27 年 1 月 " (南気仙沼)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H26 年 9 月 測量設計業務契約(松崎尾崎、南気仙沼) ・ H26 年 11 月 事業説明会開催(尾崎) ・ H27 年 1 月 " (南気仙沼) ・ H27 年 1 月 住民意見交換会(尾崎)

No.	プロジェクト名	平成 26 年 12 月末の状況	平成 27 年 3 月末の状況
8	商店街および 中心市街地再生 P	<ul style="list-style-type: none"> 鹿折地区の「仮設の仮設」は予定どおり完成し、H26 年 8 月下旬より営業を開始 魚町・南町地区については、土地区画整理事業に伴う新たな商店街構成の方向性について、関係者と随時協議を行っており、2つの団体が具体的に動き始めた。 <ul style="list-style-type: none"> ① 紫市場を核とした「南町・魚町共同化店舗(仮称)」の設立 <ul style="list-style-type: none"> ※H26 年 12 月グループ化補助申請(46 事業者で構成) ② 市民有志によるエスポート跡地での新たな商業施設の建設計画 <ul style="list-style-type: none"> ※H27 年 3 月「まちづくり会社」の立ち上げを予定 H25 年度創設の市独自支援策:「地域商業等計画策定事業補助金」について、上記②が活用する予定 市内の各商店街関係者等と意見交換を頻繁に実施 国・県による各種補助制度は、条件・制約付きであり、活用は容易ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 鹿折地区においては、土地区画整理事業後の商店街再生に向け、地元商店街(浜商栄会)が中心となりグループ補助の活用に向けた検討を行っている。 魚町・南町地区においては、紫市場を中心とした内湾商店街の本設化について、グループ補助を活用しながら本年中に着工する予定。また、賑わい創出のため、ウォーターフロント部と南町3区に新たな商業施設整備を検討中。 市独自支援策として商店街が行う再生計画づくりに必要な費用の一部を補助する「地域商業等計画策定事業補助金」を実施。(平成26年度は市内2団体が活用) 区画整理事業等の公共事業に伴う仮施設からの退去や、その出口支援については、都市計画課やUR、内湾JV、入居者とともに継続的に協議している。
9	特区活用漁業 再生振興P	<ul style="list-style-type: none"> 復興期における継続的取組として、H26 年 5 月4～11 日にベルギー、ノルウェー等の水産業の調査を目的とした水産業輸出促進等調査事業を実施した。 水産業界全体の知識・情報力アップを図るため、H26 年 11 月～H27 年5月まで、計7回の連続講座を実施予定。 	<ul style="list-style-type: none"> 復興期における継続的取組として、H26 年 5 月4～11 日にベルギー、ノルウェー等の水産業の調査を目的とした水産業輸出促進等調査事業を実施した。 水産業界全体の知識・情報力アップを図るため、H26 年 11 月～H27 年 5 月まで、計7回の連続講座を計画。H26 年 3 月まで、5回の講座を実施した。
10	文化芸術芸能 復興P	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な団体への用具補充は9割完了。 行政の人員不足により各団体の自主的な事業展開の支援に留まっているが、市内外の公演のコーディネートを行い発表機会の確保と情報発信に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 民俗芸能団体への用具等の補充は9割が完了したが、一部の団体で未了があるため、引き続き支援に努めた。 後継者育成や発表の場を確保するため、相談及び情報提供に努めた。
11	防災自然公園ベル ト「海の照葉樹 林」P	<ul style="list-style-type: none"> 設置箇所、形態等について未検討 防災林等の設置状況を確認中 	<ul style="list-style-type: none"> 左記に同じ
12	水源の分散化 (安全な水辺づく り)P	<ul style="list-style-type: none"> 応急給水計画の策定 井戸及び小川的位置等の資料収集済 給水車(4t 車)1台発注済 他自治体の事例調査 マップ化については、引き続き検討中 	<ul style="list-style-type: none"> 給水車(4t 車)1台購入納車 マップ化については、引き続き検討中
13	復興住宅整備P	<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年 9 月から各地区で本申込みを実施し、入居の最終意向確認を進め、現段階での有効申込み件数は約 2,070 件となっている。 現段階の整備予定戸数は 2,155 戸。 昨年 7 月の仮申込み以降、災害公営住宅の入居に関する相談が 90 件余り寄せられているほか、現段階で応急仮設住宅入居 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年 9 月から各地区で本申込みを実施し、入居の最終意向確認を進め、現段階での有効申込み件数は約 2,050 件となっている。 現段階の整備予定戸数は 2,155 戸。 平成 25 年 7 月の仮申込み以降、災害公営住宅の入居に関する相談が 100 件余り寄せられているほか、現段階で応急仮設

No.	プロジェクト名	平成 26 年 12 月末の状況	平成 27 年 3 月末の状況
		<p>の住宅再建意向未確定者のうち 30 世帯程度が災害公営住宅への入居を希望している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本申込みでの辞退等もあり、整備戸数は充足するものと見込んでいる。 追加申込み等の実施については、本申込みや相談状況等を踏まえながら検討する。 工事の進捗については、各地区の進捗状況を確認しながら、平成 26 年 5 月と平成 27 年 1 月に工程の見直しを行い、遅れが見込まれる地区については、説明会を実施するなど、入居予定者への周知を図るとともに、理解を求めている。 <p>平成 27 年 1 月末には、市内第 1 号となる南郷地区災害公営住宅の入居を開始する予定となっている。</p>	<p>住宅入居の住宅再建意向未確定者のうち 30 世帯程度が災害公営住宅への入居を希望している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本申込みでの辞退等もあり、整備戸数は充足するものと見込んでいる。 追加申込み等の実施については、本申込みや相談状況等を踏まえながら検討する。 工事の進捗については、各地区の進捗状況を確認しながら、平成 26 年 6 月と平成 27 年 1 月に工程の見直しを行い、遅れが見込まれる地区については、説明会を実施するなど、入居予定者への周知を図るとともに、理解を求めている。 平成 27 年 1 月末には、市内第 1 号となる市営南郷住宅(先工区)75 戸の入居を開始。 平成 27 年 3 月末には、市営南郷住宅(後工区)90 戸と市営長磯浜南住宅 20 戸の入居を開始。 工事の進捗を見ながら、平成 27 年 6 月までに全体工程の見直しを行う予定。
14	企業・大学・研究機関誘致強化 P	<ul style="list-style-type: none"> 企業誘致については、企業立地セミナーへの参加や企業訪問活動を中心に取り組んでいる。 「ゴーヘイ！気仙沼の会」の会員等への情報提供も引き続き実施中 <p>大学との連携協定による活動を引き続き行い、各団体との連携を強める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 左記に同じ
15	観光メニュー開発 P	<ul style="list-style-type: none"> 観光チーム気仙沼の上半期ワークショップを 3 回開催の後、H26 年 7 月に体験プログラムのモニターツアーを行った。同モニターツアーは旅行会社の企画旅行の冊子に取り上げられることが決定。 観光チーム気仙沼の取り組みを基にした工場体験や乗船体験を組み込んだ旅行商品が観光庁長官賞を受賞した。 観光チーム気仙沼の下半期のワークショップ第 1・2 回開催。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度観光誘客宣伝イベント支援補助金を 3 件 777 千円、観光まちづくり事業補助金を 5 件 3,849 千円交付。両補助金を統合し、新年度からは観光魅力創造補助金とすることを決定。 観光チーム気仙沼の下半期のワークショップ第 3 回開催。検討した宿泊パックのモニターツアーを行った。
16	NPO・NGO との積極的協働 P	<ul style="list-style-type: none"> 気仙沼ファンクラブを設立し、H26 年 12 月 26 日現在の会員数は、5,294 名 「しごと分科会」は内容が多岐にわたり、市と NPO の共通論点が見いだせないため、各プロジェクトごとに実施することにした。 仮設住宅分科会及びまちづくり分科会は、今後の状況変化に応じて開催する。毎週金曜日に開催している気仙沼 NPO/NGO 連絡会において状況共有や意見交換し支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 気仙沼ファンクラブを設立し、H27 年 3 月 31 日現在の会員数は、5,459 名 「しごと分科会」は内容が多岐にわたり、市と NPO の共通論点が見いだせないため、プロジェクトごとに実施 「仮設住宅分科会」は開催していないものの、毎週金曜日に開催している気仙沼 NPO/NGO 連絡会において、状況共有や意見交換し支援を行っている。 各分科会は今後の状況変化に応じて開催

No.	プロジェクト名	平成 26 年 12 月末の状況	平成 27 年 3 月末の状況
17	情報発信改革 P	<ul style="list-style-type: none"> ・ 震災翌日から連日記者会見を開催しており、現在は毎週2回実施 ・ H24年12月から26年3月までKDDI株式会社から派遣を受け広報業務支援員を配置し、情報発信体制の見直しを実施 ・ H25年6月に市ホームページをリニューアル。H26年7月には震災復興サイトのリニューアルを実施 ・ 情報をより確実に周知するため「広報けせんぬま号外版」をH24年7月より16回発行 ・ 制度周知や復興推進を図るため「けせんぬま復興ニュース」をH24年8月より毎月2回、計59号発行 ・ フェイスブックを活用し、海外版と日本語版の気仙沼の情報を発信 ・ 各地区自治会連絡協議会等及び市民を対象に市政懇談会を開催し、広聴及び情報発信に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左記に同じ
18	復興シンボルイベント開催 P	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、タイミングを図り展開 ・ 震災からの復興の象徴となるような記念事業の資金に充てるため、気仙沼復興記念事業基金を設置(H25年度5,000千円積立) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、タイミングを図り展開 ・ 震災からの復興の象徴となるような記念事業の資金に充てるため、気仙沼復興記念事業基金を設置(H25・26年度計10,000千円積立)